

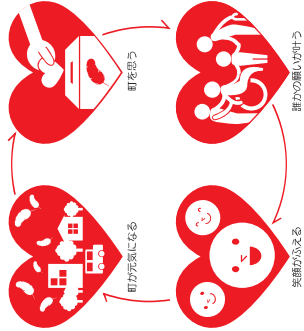


支えあうココロ、未来へ。

赤い羽根共同募金とは？

■赤い羽根共同募金は、「じぶんの町を良くするしくみ」です。

「赤い羽根共同募金」は共同募金の愛称です。1947年(昭和22年)に「国民たすけあい運動」(国民共済運動)として始まり、多くのボランティアの方々の協力のもと毎年10月から12月の期間「共同募金運動」が行われます。共同募金は「地域福祉の推進」を目的としており、少子高齢化が進む中で、高齢者、障がい者、子どもたちなどへの福祉活動や、地域で様々な福祉課題に取り組むボランティア活動などに役立てられる募金です。一人ひとりの町を思うやさしさが、地域で暮らす私たちのつながりを強くし、町となり広がっていきます。



■赤い羽根共同募金は、助成の計画を立ててから募金(寄附)を集めるしくみです。

地域の民間福祉団体のニーズを把握してから募金活動を行う「計画募金」という方法をとっています。これは他の募金には見られない、共同募金だけの特徴です。各市町村の福祉の現場からの「町を良くしたい」という強いをもとに、募金活動を行っています。

■地域で集めた募金は、集めた地域で使われています。

募金の約70%は、あなただけのために使われています。また残りの約30%はみなさんの住んでいる市町村を越えた、より広域的な課題を解決するための都道府県域の活動に使われています。※ただし、下記「災害等準備金」は例外的に都道府県域を超えた被災地支援にも活用されます。

■災害にも赤い羽根共同募金は使われています。

募金額の一部は毎年「災害等準備金」として積み立てられており、災害発生時には、災害被災地で速やか支援活動が行えるようボランティアセンターの開設・運営のための資金として、また被災した福祉施設の復旧支援に使われます。じぶんの町にも、もしもの時にも、赤い羽根共同募金は役立てられています。



赤い羽根共同募金